

第41回拓大ミュージカル公演に寄せて

本日は、第41回拓大ミュージカル『捨てられた夢の箱から』にお越し頂き、誠にありがとうございます。

昨年2月、保育学科の令和7年度学生募集停止という苦渋の判断がなされて以降、第41回の開催が危ぶまれる状況乗り越えて本日を迎えることができたのは、総勢50名の学生の皆さんの熱い想いと、新作を作られた土門裕之先生、教職員・非常勤講師の皆さんの献身的なご指導の賜物であり、心から敬意と感謝を表します。



1985年に土門先生の呼びかけで産声を上げた「拓大ミュージカル」は、40年にわたる歴史を築いてきましたが、この第41回をもって最終公演となります。市民の皆さんの温かいご声援と多くの企業・団体・深川市からのご支援があってこそ、永きにわたり歩み続けることができた感謝の気持ちでいっぱいです。大学を代表して、改めて心から御礼申し上げます。

学生の皆さん、この最後の舞台上で思い切り躍動し、観客の皆さんに感動を与えてください。そして仲間と共に頬を感動の涙で濡らし、この5か月間の貴重な体験を胸に刻んでください。それは、あなたたちにとってかけがえのない財産となるはずです。みんな輝け！

拓殖大学北海道短期大学 学長 田中 英彦

拓殖大学北海道短期大学ミュージカルの公演にあたり、心よりお祝いを申し上げます。

昭和60年から始まり、今年で41回目を迎える伝統の拓大ミュージカルは、毎年、市民の皆様に文化芸術と接する機会を創出するとともに、多くの皆様の心に大きな夢と感動を与えていただいております。その拓大ミュージカルが、最終公演を迎えるにあたり、ファンの一人として寂寥の思いを抱くと同時に、これまで本市の文化芸術の振興と知名度向上に寄与いただいたことに心より感謝申し上げます。



今日の晴れ舞台を迎えるまでの間、キャストはもちろんのこと舞台監督や音響、衣装・メイクに舞台美術、さらには実行委員会事務局といった裏方の学生の皆さん、また、それを支えてこられた田中学長をはじめとする教職員並びに関係者の皆様、とりわけ第1回から関わり、今回も脚本・音楽にあたられた土門裕之氏のご尽力に、心から敬意を表します。

結びに、本公演が学生の皆さんにとっていつまでも思い出に残る最高の千秋楽を迎えられるとともに、有終の美を飾られますことをご祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

深川市長 田中 昌幸

本日は、第41回拓大ミュージカル『捨てられた夢の箱から』にお越しいただき、ありがとうございます。今年もたくさんの方々のご協力のもと、本日を迎えることが出来ました。学生を代表して感謝申し上げます。

今回、ミュージカルに参加している学生は50名と例年に比べ、とても少ない中で活動してきました。たくさん仕事があるのにも関わらず、楽しい企画を考えてくれたり、広報に尽力してくれたりなどたくましい事務局、新作の物語にあった雰囲気や素晴らしいセットを作ってくれたり、一人一人にあった衣装やメイクを考案してくれた発想力豊かな舞台美術、ステージの動きやキャストの動きを全て把握して的確な指示を出してくれる司令塔の舞台監督、たくさん音楽がある中、タイミングや音量を完璧に合わせてくれる繊細な音響、そんな素晴らしい環境で役を演じるキャスト。頼れる仲間たちがいたからこそ第41回の最終公演を迎えられました。学生全員でつくりあげた舞台を最後まで見届けていただけると幸いです。



第41回拓大ミュージカル実行委員会 委員長 柿崎 萌